

第11回 創発研究交流会

最先端の計測技術、実験手法、理論・計算・データ科学的手法の中から異分野にも役立つようなものを紹介し、物理学教室内の連携研究を創発・促進する

日時: 2026年3月31日(火) 16時~17時(予定)

会場: ハイブリッド(CURIE室(338号室) + Zoom)

Zoomの接続は[こちら](#) あるいは右記QRコードより



対象: 物理学教室の教員・ポスドクタ・院生、
JSR・東京大学協創拠点CURIE関係者、JSR社員

講師: 安東 正樹 教授 (理学系研究科 物理学専攻)

“重力波宇宙物理学と量子計測技術”



2015年に宇宙からやってくる重力波が初めて観測され、人類は宇宙を観測する新たな手段を手に入れました。重力波望遠鏡は、基線長数キロメートルのレーザー干渉計を用いて、原子核サイズ以下の変位を測定する精密装置です。光の量子雑音は、その望遠鏡感度を制限する主要な要因の一つとなっており、それ自体が基礎物理学や量子計測技術への応用も期待できる研究対象になっています。本講演では、光の不確定性を操作して測定精度を高める光スクイーミングの技術や、巨視的な鏡と光学系を結びつける量子オプトメカニクスの技術など、重力波観測の感度向上を支える精密計測技術とその応用についてお話します。

これまでの交流会	第10回 “浮揚ナノ粒子における非古典的運動状態の生成”:	相川 清隆	准教授
	第9回 “物理と生成AI: 拡散モデルとくりこみ群”:	蘆田 祐人	准教授
	第8回 “非平衡量子多体系のための数値解析”:	辻 直人	准教授
	第7回 “多様な熱流に由来した熱電効果”:	松浦弘泰	助教
	第6回 “量子アルゴリズムと最適化”:	中西 健	特任助教
	第5回 “超高圧環境下で磁性を観る”:	北川健太郎	講師
	第4回 “アクティブマターの物質相探求と関連技術”:	竹内一将	准教授
	第3回 “X線宇宙物理学とその検出技術”:	馬場 彩	准教授
	“量子コンピュータを用いた物理系の解析”:	永野 廉人	特任研究員
	第2回 “マイクロ・ナノスケールの微細構造作製技術”:	小西 邦昭	准教授
	“先端光技術を用いた中赤外分光および顕微鏡”:	井手口 拓郎	准教授
	第1回 “スーパーカミオカンデの水”:	中島 康博	准教授
	“色中心量子センサによる磁場・温度の精密計測”:	佐々木 健人	助教



<問い合わせ先> CURIE事務室 curie_admin@phys.s.u-tokyo.ac.jp